

《強心薬 No2》

- 問 1 強心薬とその有効成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。
- a ロクジョウは、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
 - b センソが配合された内服固形製剤は、口中でよく噛んで服用することとされている。
 - c ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
 - d センソは、1日用量中のセンソが10 mg を超える場合には劇薬に指定されており、一般用医薬品では、10 mg 以下となるよう用法・用量が定められている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

- 問 2 強心薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。心筋に作用して、その収縮力を高めるとされる成分（強心成分）を主体として配合される。
- 2 センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、吸収を促すため、口中で噛み砕いて服用するものとされている。
- 3 シンジュはウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。
- 4 一般に、強心薬を5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因、例えば、呼吸器疾患、貧血、高血圧症、甲状腺機能の異常等のほか、精神神経系の疾患も考えられる。医薬品の販売等に従事する専門家においては、強心薬を使用した人の状況に応じて、適宜、医療機関の受診を勧奨することが重要である。

問 3 強心薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬である。
- b センソは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬である。
- c ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬である。
- d ロクジョウは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬である。

1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 4 強心薬に配合される生薬成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a センソが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- b 一般用医薬品では、センソの1日用量が5 mg 以下となるよう用法・用量が定められており、それに従って適正に使用される必要がある。なお、通常用量においても、悪心（吐きけ）、嘔吐の副作用が現れることがある。
- c ジャコウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- d リュウノウは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）があるとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

- 問 5 強心薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。
- a 一般に、強心薬を5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因、例えば、呼吸器疾患、貧血、高血圧症、甲状腺機能の異常等のほか、精神神経系の疾患も考えられる。
 - b 強心薬には、心筋を弛緩させる成分が主体として配合されている。
 - c センソは、有効域が比較的狭い成分であり、1日用量中センソ5mgを超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。
 - d ジャコウは、強心薬のほか、小児五疳薬にも配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

- 問 6 強心薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。
- a センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、有効域が比較的狭く、一般用医薬品では1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。
 - b ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
 - c ロクジョウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
 - d リュウノウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 7 強心薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a レイヨウカクは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄の幼角を用いた生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- b ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高める等の作用があるとされる。
- c インヨウカクは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下等の作用があるとされる。
- d ジンコウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 8 心臓などの器官や血液に作用する薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゴオウ は、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- b シンジュ は、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。
- c 苓桂朮甘湯は、強心作用と尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促す。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	正	正	正

問 9 心臓などの器官や血液に作用する薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

b 強心薬に配合されるジンコウは、鎮静、健胃、強壯などの作用を期待して、小児鎮静薬にも配合される。

c ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。

d 苓桂朮甘湯は、強心作用が期待される生薬を含み、強心作用と尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促す。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問 10 強心薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇作用があるとされる。
- b センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示し、一般用医薬品では、1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。
- c 苓桂朮甘湯は、強心作用が期待される生薬は含まれず、主に尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼とする。
- d ロクジョウは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壯、血行促進等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問 11 強心薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 1日用量中センソ5mgを超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。
- b キキョウやボタンピは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して用いられる。
- c ロクジョウは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。
- d ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

問 12 強心薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 強心薬には、心筋に作用して、その収縮力を高めるとされる成分が主体として配合される。
- b センソは、通常用量においても悪心（吐きけ）、嘔吐の副作用が現れることがある。
- c ジャコウは、ウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用がある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

問 13 強心薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。
- b 1日用量中センソ 1 mg を超えて含有する医薬品は、劇薬に指定されている。
- c ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- d 苓桂朮甘湯には、強心作用が期待される生薬が配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	誤

問 14 強心薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して、生薬成分であるジャコウが用いられる。
- b ゴオウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ等の外套膜組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。
- c 苓桂朮甘湯は、構成生薬としてカンゾウを含み、高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人では、偽アルドステロン症を生じやすい。
- d センソが配合された一般用医薬品では、センソの1日用量が10mg以下となるよう用法・用量が定められている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	誤

問 15 強心薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ユウタンは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- b センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。
- c シンジュは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされる。
- d リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 16 次の記述は、動悸及び息切れに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a 不安やストレス等の精神的な要因で起こることはない。
- b 動悸は、心臓の働きが低下して十分な血液を送り出せなくなり、脈拍数を増やすことによってその不足を補おうとして起こる。
- c 息切れは、心臓から十分な血液が送り出されないと体の各部への酸素の供給が低下するため、呼吸運動によって取り込む空気の量を増やすことでそれを補おうとして起こる。
- d 体調不良時でも平静にしていれば起こることはない。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問 17 次の1～5で示される強心薬に用いられる成分のうち、有効域が比較的狭い成分であり、1日用量として5mgを超えて含有する医薬品が劇薬に指定されているものはどれか。

- 1 ジャコウ
- 2 センソ
- 3 ロクジョウ
- 4 ゴオウ
- 5 リュウノウ

- 問 18 次の記述は、強心薬に含まれる配合成分に関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。
- a 一般用医薬品に含有されるセソは、1日用量が5 m gを超えるように用法・用量が定められている。
 - b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高め、意識をはっきりさせる作用を期待して用いられる。
 - c シンジュは、鎮静作用を期待して用いられる。
 - d リュウノウは、心筋に直接刺激を与え、強心作用を期待して用いられる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

- 問 19 心臓及び強心薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 心臓の働きは、通常、体性神経系によって無意識のうちに調整がなされている。
- イ 強心薬を5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、呼吸器疾患、貧血、高血圧症、甲状腺機能の異常のほか、精神神経系の疾患も考えられる。
- ウ ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- エ 苓桂朮甘湯は、強心作用が期待されるセソを含む。

1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (ウ、エ)

問 20 一般用医薬品を一定期間使用して対処した場合であっても、症状の改善がみられないときに、継続して一般用医薬品を使用することが適当でない、対象成分を含む一般用医薬品とその使用期間の関係の正誤について、正しい組合せを一つ選べ。

- a フマル酸第一鉄を含有する貧血用薬 — 1～3ヶ月
- b ポリエンホスファチジルコリンを含有する高コレステロール改善薬 — 5～6日間
- c センソを含有する強心薬 — 5～6日間
- d ユビデカレノン含有する循環器用薬 — 1～3ヶ月

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤